

第4回常願寺川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成20年10月22日(水) 13:30～15:30

場所：パレブラン高志会館 2F 嘉月

議事次第：

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 議事
 - 1) 第3回流域懇談会の指摘事項を踏まえた常願寺川整備計画(たたき台)について
 - 2) 地域住民への意見聴取方法について
5. 閉会

◇議事

1. 「整備計画(たたき台)」について

[主な意見]

(委員A)

- ・ 総合土砂管理の話が出たが、神通川から東の海岸では侵食が激しく、常願寺川河口の西側にある水路も深くなっており、波浪災害で被災する可能性があると思う。 1
- ・ 横江のえん堤やその上流にある砂防えん堤に貯められた土砂を海岸の危険な箇所に補給できないか。海岸には、テトラポットの離岸堤があるが、砂が供給されないため、砂浜が回復していない。離岸堤の裏には、5～6mの深掘れも発生している。平野部の災害に関しては、安全になってきたと思うが、砂防えん堤の土砂をとって復活させるというような効率のよい常願寺川の総合土砂管理を検討してほしい。 2

(事務局)

- ・ 海岸侵食の原因は様々あり、海岸侵食と砂防との関係については明確ではない。富山湾全体の砂の動きも影響するため、その辺も含めて検討していく必要があると思う。 3
- ・ 自然の力に対し、流出土砂を砂防えん堤で全部とめることはできない。かなりの量が下流に流れていると考えられる。基本的には、一気に流れてきた土砂、あるいは直上流で崩壊したものを徐々に下流に流すという役割を持っている。さらに現在では、そういった役割がより期待されるスリット型(透過型)えん堤等も新設している。 4
- ・ また、出水規模と土砂流出量の関係を観測することも始めている。

(事務局)

- ・ 上流域の砂防と海岸侵食については、総合土砂管理として検討すべき課題の1つとして考えている。 5
- ・ 近年の常願寺川の河床は安定傾向にあるが、有効的な土砂の活用方法も含めて今後の総合土砂管理を関係機関と協力しながら検討していきたい。 6

(座長)

- ・ 器だけでなく流砂系全体として着実に実態を解明していくべきである。その際には、土 7

砂が大量に流下したときの影響も十分踏まえて総合土砂管理を考えていく必要がある。

- ・ 総合土砂管理は河川整備計画の大きな柱の1つであり、掲載位置は検討すべきではないか。

(委員B)

- ・ 確率150分の1の洪水規模というよりも住民にとっては、どの程度の規模の洪水に対処できるかということに関心があると思う。

8

(事務局)

- ・ 普通の河川では、治水の安全度を計画規模として定めているが、常願寺川の特徴としては、確率150分の1の計画流量に達する前に被災が起きる可能性が高く、侵食、洗掘に対する安全性の確保という急流河川対策が重要な対策であるため、こういう書き方としている。

9

(座長)

- ・ 地域住民の方々から見れば、150分の1という伝え方をすると、そういう規模の洪水がきても安全だと思うので、誤解を与えるのではないか。

10

- ・ 現在の技術では不確かな部分があって踏み込めていないが、堤防や護岸という川の構造物の安全性を担保するためにはどういうことをやらなければならないのか、現状の安全度はどの程度なのか、今後の対策等、具体的なところを調査研究していく必要があると思う。

11

(委員C)

- ・ 基本理念の「水と石を礎に」が具体的に何を指しているのかが分からない。極端に言えばこれがなくても「地域に恵と学びを～」と続いていけるのではないかと思う。また、基本理念と改正された河川法の3つの柱とどのように整合しているのか。

12

(事務局)

- ・ 常願寺川のイメージを出す上で、わかりやすいキーワードになるという意味で記載したものである。
- ・ 河川法との関係は、どれかということではなく治水・利水・環境のバランスをとっていくということを目指していきたい。

13

14

(事務局)

- ・ 河川整備計画は河川法第16条に基づき、治水「洪水、高潮等による災害発生の防止」、利水「河川適正利用と流水の正常な機能の維持」、環境「河川環境の整備と保全」が総合的に達成できるよう定められている。河川整備計画の項目立ては河川法の規定に従って作成されている。

15

(座長)

- ・ 「水と石を礎に」というのは分かりづらいと思うがどうか。

16

(委員C)

- ・ 考え方はそれでいいと思うが、もう少しうまい表現があるのではないかと思う。
- ・ 整備計画本文の「スポーツの盛んな～」等は、環境の項目に入れずに利水に入るのではないかと思う。

17

18

(座長)

- ・ これについては、よく相談して決めていけばよいと思う。 19
- (委員D)
- ・ 常願寺川流域の人々だけではなく、富山県民が安心して生活できるのは、国の治水や土砂管理によって安全が保たれているということを一般に広く啓発していただきたい。 20
 - ・ フィールドミュージアム構想は非常におもしろいと思う。これを機会にいろいろな事例を踏まえて一般の方々に紹介してほしい。 21
 - ・ 安政の大地震後、「災害防除の堤防の自普請」という農民たちが自ら作った堤防が現存しているので、正確に調べてほしい。 22
 - ・ 20年ほど前に小中学生向けに作成した川のマップがあるので、それを活用して見学会等で難しい話を分かりやすく紹介してほしい。 23
- (座長)
- ・ 調査が足りないところは調査を行うとともに、フィールドミュージアム構想に常願寺川がまるごと勉強の場所だということを考えてほしい。 24
- (事務局)
- ・ フィールドミュージアム構想の具体的内容については、関係機関と連携をとり地域と一体となって川の意識を皆さんに持っていただくよう努めていきたい。 25
- (委員E)
- ・ 常願寺川は暴れ川というイメージがあり、内水面漁業権が設定されていないが、調査結果から魚類がたくさんいる事がわかった。 26
 - ・ 微生物等による自浄作用が良好な水質を維持しているという観点での記載がないので書き込んでほしい。 27
- (委員F)
- ・ 危ない川という認識はあっても明確に分かる資料となっていないので、素人でも分かりやすい言葉での説明があった方がよい。 28
- (委員G)
- ・ 常願寺川の水質は非常が良く、管理もされているので問題はないと思う。 29
 - ・ 「荒廃河川」という言葉は、安政大地震後にはそうだったが、現在では公園利用等の人の手がかなり入った川なので意味が分かりづらいと思う。 30
- (事務局)
- ・ 急流かつ上流の立山カルデラを含めてまだ荒廃しているので用いているが、管内の川が荒廃しているという意味ではなく、上流が荒廃しているという意味もあると思う。 31
- (座長)
- ・ 「荒廃河川」という言葉は、器は出来ているのに荒廃しているように、住んでいる人には思われてしまうだろう。ただ、こういう意識を持って河川事業に取り組む必要があると思う。そのことが川の安全性にどう影響するかということ立山砂防と一緒に考えてほしい。 32
- (事務局)
- ・ 表現方法について考えてみたいと思う。 33
- (委員H)

- ・ 住んでいる地域によっては常願寺川が急流だとは、思っていない。安全神話があり、そう思っている人が大半なので、整備計画を理解してもらう必要がある。「らしさ」は、もっとはっきりさせていくと良い。

34

- ・ 上流のカルデラには興味があるが、下流の河川に親しみを持ったり、興味や意識を持っている人がどれくらいいるのか。歴史的なことを含め、もっと「らしさ」を強調して、どのようにみんなに理解して、親しんでもらうのかを考えていく必要がある。

35

- ・ 貴重な魚もいるらしいが、ヤブに覆われているので見たことがない。これからの保存方法を考えるわけだが、例えば、信濃川の大河津分水のように水に潜ってガラス越しに魚が見られる所がある。そのようにすごい川なんだということを見せていく工夫も大事ではないか。

36

(事務局)

- ・ 地域に住んでいる人と外からの川に対するイメージがそれぞれ違うことは認識しているので、地域住民が当たり前だと思っているようなことよりもナンバーワン、オンリーワンのような興味を引くような説明の仕方があってもよいと思う。

37

(委員 I)

- ・ 用語が難しいので注釈をつけてはどうか。
- ・ 河床が安定しているので、大規模洪水により堤防の管理のあり方がこの河川の課題になっているのに、今の状況を「荒廃河川」と呼ぶとかえって分かりにくくなるし印象が違おうと思う。
- ・ P59「急流河川対策（「急流河川」特有の流水の巨大なエネルギーに対する堤防の安全確保）」のように、P63「堤防の質的整備」についても抽出箇所の説明をもう少し丁寧に書いた方が分かりやすくなると思う。

38

39

40

(事務局)

- ・ ボーリング調査を一定の間隔で行っているが、文章に「地質調査をやった上で」と付け加えたい。

42

(座長)

- ・ 「安定している」というが、平均的に見て変わっていないだけで、ものすごく変動をしているのは間違いない。川の特徴をあらわしていないので表現も考えてほしい。

43

(委員 J)

- ・ 整備計画本文には、左岸側の破堤状況について人口や資産を考慮すれば当然かもしれないが、いわゆる富山市の断面や絵が多い。右岸は危険がないのかと感じてしまうので、右岸側の写真等も増やしてほしい。

44

(事務局)

- ・ 富山市のほうが市街地、県庁所在地というインパクトによって強調してしまった。右岸側の断面図も加えていきたい。

45

(委員 F)

- ・ 親水公園や河川敷に取り残されるニュースなどからも分かるように、天気がよくても突然水が増えることがあるということ为例え、防災教育などによりそういうメカニズムをわかりやすく教えていってもらえると良い。

46

2. 住民の意見聴取

(委員G)

- ・ 「荒廃河川」ということでしたが、「暴れ川」で検索すると常願寺川が一番出てくる。この会ではイメージがよくない感じだが、意外と地域の皆さんは誇りに思っているのではないか。このことを考慮して常願寺川のキャッチフレーズを意見聴取するのが1番いいのではないか。

47

(委員H)

- ・ 意見聴取等をするときには、本来聴くべき住民の声を拾うのが最大の目的である。そのための掘り起こしていくアンケート方法は捨てがたい。例えば、ボランティア等を活用して一人一人家を訪ね、各年代別に意見を集めることを考えたらどうか。

48

(委員D)

- ・ アンケート調査やインターネットによる方法もあるが、百聞は一見にしかずで、主要な箇所を見学して、きちんと説明すれば、たくさん回らなくても十分にいろいろな意見を聴取することができると思う。

49

(委員A)

- ・ 市町村の下に区長会というのがあると思うので、そのような会を使って説明すれば地域住民のいろいろな意見がとれると思う。

50

(座長)

- ・ ただいまのようなご意見を参考にして、よく検討してほしい。
- ・ 維持管理の具体的な実施計画をつくるのが大事なことだと思うが、どこで触れられているのか。

51

52

(事務局)

- ・ 維持管理計画は、サイクル型のイメージしか記載していなかった面もあるので修正する。

53

(座長)

- ・ 表現をやさしくというのがあったし、これを作ったらどのような形で皆さんが閲覧できるのか。同時に知ってもらうためにはフォローアップ作業をし、その実行、効果あるやり方等を判定してもらわなければならない。やはり世の中の人にわかるようにしておく必要がある。
- ・ 暴れ川のイメージがあって、何となくすごい川というイメージがあるが、それをきちんと分かりやすく伝えることにより、意見や関心を持ってもらえると思う。

54

55

(事務局)

- ・ フォローアップに関しては、いろいろと検討する。

56

(委員A)

- ・ 今まで横江のえん堤には魚道がなかったのだが、今年度で完成する。そうした環境にも配慮していることを紹介してほしい。

57

(座長)

- ・ 横江えん堤について、よくご意見を伺って修正してほしい。

58